# 平成 26 年度事業計画

自　平成 26 年 4 月　1 日

至　平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人 日　本　棋　院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

# 目　　次

はじめに

Ⅰ　囲碁普及事業（公益目的事業1）
　1　棋戦事業
　2　棋士育成事業
　3　囲碁対局環境の提供
　4　囲碁普及と囲碁指導
　　4-1　青少年等への囲碁普及
　　4-2　国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
　　4-3　海外への囲碁普及
　5　段級位認定
　6　囲碁大会の開催
　　6-1　青少年対象の囲碁大会の開催
　　6-2　囲碁選手権・囲碁大会等の開催
　　6-3　国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
　7　表彰
　8　囲碁関係情報提供
　9　囲碁殿堂資料館
　10　各拠点での活動
　　10-1 有楽町囲碁センター
　　10-2 関西総本部
　　10-3 中部総本部

Ⅱ　収益事業
　1　免状発行および普及指導員認定事業　（収益事業1）
　2　不動産賃貸事業（収益事業2）
　3　販売品、書籍事業（収益事業3）

Ⅲ　管理部門
　1　受取寄付金
　2　コンプライアンス
　3　日本棋院創立90周年事業

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

また、平成26年度は、「日本棋院　創立90周年」にあたる節目の年であり、記念事業などを展開する。

平成26年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

## Ⅰ　囲碁普及事業(公益目的事業1)

### 1　棋戦事業

棋戦は､囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の模様は、テレビ・インターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁等、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦等を含めた平成26年度予定の棋戦概要、共催団体等は以下の通りである。

(1)棋聖戦　(第39期　読売新聞社)

予　選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（4枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：2リーグ制。各リーグ6名の総当たり戦を実施。
各リーグ1位が棋聖への挑戦権をかけて一番勝負。
なお、各リーグ陥落者2名の計4名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(2)名人戦　(第39期　朝日新聞社)

予　選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（3枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。
なお、リーグ陥落者3名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(3)本因坊戦　(第69期　毎日新聞社)

予　選：全棋士が参加し、リーグ戦入り（4枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。
なお、リーグ陥落者4名は来期予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し本因坊位を決定。敗者は来期リーグ戦出場。

(4)天元戦　(第40期　新聞三社連合)

予　選：全棋士が参加し、本戦出場28名＋αをかけたトーナメント戦を実施。

本　戦：シード棋士が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(5)王座戦　(第62期　日本経済新聞社)

予　選：全棋士が参加し、本戦出場16名の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本　戦：シード棋士が加わり王座への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(6) 碁聖戦　（第 39 期　　新聞囲碁連盟）

予　　選：全棋士が参加し、本戦出場 24 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本　　戦：シード棋士が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し碁聖位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(7) 十段戦（第 52 期　　産經新聞社）

予　　選：全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本　　戦：シード棋士を含む 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は来期本戦から出場。

(8) 竜星戦（第 23 期　　囲碁将棋チャンネル）

予　　選：全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。

本　　戦：96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。ＣＳ放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映。

(9) ＮＨＫ杯テレビ囲碁トーナメント戦　（第 62 回　ＮＨＫ）

選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(10) テレビ囲碁アジア選手権　（第 26 回　ＮＨＫ・ＫＢＳ・ＣＣＴＶ）

日本、韓国、中国 3 カ国が持ち回りで開催。

前年度優勝者と（ＮＨＫ杯、ＫＢＳ杯、ＣＣＴＶ杯）優勝、準優勝者、各 3 名の計 7 名によるトーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。第 26 回は中国で開催の予定。

(11) 新人王戦　（第 39 期　しんぶん赤旗）

25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、前期準優勝者を含む 33 名によるトーナメント戦を実施する。優勝決定三番勝負出場者 2 名を選出し優勝者を決定。

(12) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦　（第 21 期　毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

アマチュア 20 名を含む全棋士で予選を行い、予選通過者とタイトル保持者の計 16 名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する。（決勝戦は京都開催）

(13) 阿含桐山杯日中決戦　（第 16 期　　毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。

第 16 期は、日本で開催の予定。

(14) 女流本因坊戦　（第 33 期　共同通信社）

予選を勝ち上がった 16 名によるトーナメント戦

挑戦手合：五番勝負（3 勝先取）を実施し女流本因坊位を決定。

(15) 女流名人戦　（第 27 期　産經新聞社）

予選を勝ち上がった 7 名がリーグ戦を行い１位が挑戦者となる。

挑戦手合：三番勝負（２勝先取）を実施し女流名人位を決定。

(16) 女流棋聖戦　（第 18 期　ＮＴＴドコモ）

予選を勝ち上がった 16 名によるトーナメント戦。

挑戦手合：三番勝負（2 勝先取）を実施し女流棋聖位を決定。

本戦、挑戦手合はＣＳ放送（囲碁・将棋チャンネル）で放映。

(17) 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦（温知会）
予選を勝ち上がった８名によるトーナメント戦が会津若松市で開催され優勝者を決定。決勝戦のみ２日制とし、準決勝までは１日のトーナメント戦を実施。

(18) 広島アルミ杯・若鯉戦　（第９回　広島アルミニウム工業）
30 歳以下、六段以下の棋士で予選を行い、16 名（前期優勝者、準優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は広島で開催され優勝者を決定。

(19)）王冠戦　（第 55 期　中日新聞社）
中部総本部所属の棋士で予選を行い 12 名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(20) マスターズカップ　（第４回　フマキラー）
50 歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者 4 名計 16 名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。

(21) おかげ杯　（第５回　濱田総業）
30 歳以下の棋士（新入段含む）で予選を行う。16 名（前期優勝者シード含む）によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催され優勝者が決定。

(22) おかげ杯国際対抗戦（濱田総業）
日本・中国・韓国・台湾各国の推薦棋士（男子２名、女性１名）による対抗戦及び、女子個人戦を伊勢市で開催し優勝者を決定。

(23) 棋戦優勝者選手権戦
国内各棋戦（女流棋戦含む）における、棋戦優勝者とファン投票選抜棋士１名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。
棋戦優勝者選手権における優勝者には、「内閣総理大臣杯・賞」「文部科学大臣楯・賞」が授与される。

(24) グロービス杯　世界囲碁Ｕ－２０（グロービス）
日本６名、韓国３名、中国３名、台湾１名、欧州１名、北米１名、オセアニア１名の１６名によるトーナメント戦がグロービス経営大学で実施され優勝者を決定。

(25) 後援の棋戦ではあるが、「25 周年記念囲碁　千里杯」が平成 26 年度も継続実施される若手１６名のトーナメント戦が実施され優勝者を決定。

(26) 海外棋戦
①ＬＧ杯、三星火災杯、農心杯（韓国）、春蘭杯、百霊杯、夢百合杯、黄竜士双登杯世界女子囲碁団体戦、穹窿山兵聖杯世界女子囲碁選手権、葛玄緑茶杯世界女流団体選手権、丙級リーグ（中国）、国際新鋭対抗戦（日中韓台で４年に１回の持ち回りで平成 26 年度は中国で開催）等の海外棋戦に参戦する。
②海外棋戦の参戦にあたっては、平成 25 年度スタートさせた「Ｇｏ　碁　ジャパン」のナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金による更なるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。
本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

## ２　棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修

毎土・日曜日（月８日間）院生研修を実施する。師範の指導のもとクラス別に対戦し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。棋士採用試験を経て棋士となる。また、院生研修日に、タイトル棋士、リーグ入り棋士による解説と検討指導を実施するほか、毎週火、水、金　午後８時より９時30分に、院生とネット対局「幽玄の間」で棋士が対局指導を行う。

(2) 若手棋士育成

「Ｇｏ　碁　ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦（三星火災杯、ＬＧ杯、農心杯等）へ挑戦させ、海外対局感覚を身につけるとともに、棋力向上の取組を行う。

また、ナショナルチームの所属棋士とU20棋士による棋力強化対局をネット対局「幽玄の間」を利用して実施する。

## ３　囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) 一般対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」などの対局組合せのほか入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとコミュニケーションの場が広がりをみせている。平成26年度は、入門・初心者向けの新サービス提供や家族、学生向けの新料金体系を導入することにより、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

(3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

欧州（1か所）、北米（2か所）、南米（1か所）に保有する囲碁センターについてヨーロッパ囲碁文化センター（オランダ）、シアトル碁センター（アメリカ・シアトル）南米本部（ブラジル）の３カ所は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援する。

ニューヨーク碁センターについては、建物を売却し、その売却から得られる資金で、「岩本北米基金」（仮称）を創設し、米国囲碁協会（ＡＧＡ）と協力のうえ、北米にお

ける囲碁普及活動を支援する。

## ４　囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後も更に普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開する。

### 4-1　青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を強化するために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

①全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催
棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

②ジュニア教室の開催
東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

(2) 学校教育への囲碁導入

①　「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入支援

②学校囲碁指導員制度の拡充及び指導員養成とその派遣

③文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進

④高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進

⑤囲碁少年少女育英資金を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、財団法人ＪＫＡの青少年健全育成補助（予定）を受け、学校囲碁指導員講習会を全国で展開する。（平成 26 年度は、昨年度と同じ 17 会場での開催を予定）

(4) 大学での囲碁授業の展開

①平成 25 年度に、名古屋大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学など、新たに 8 大学開講され、16 大学に拡大した大学囲碁授業は、平成 26 年度においても更に、数大学が実施予定または検討中であり、開講促進の活動を実施する。

②大学での囲碁授業に講師として棋士を派遣する。また、囲碁授業の円滑な実施に向けた棋士への研修を実施する等、支援を実施する。

(5)法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しているおり、会員の維持・拡大を行う。

## 4-2　国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁のすばらしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1)囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。

(2)指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3)ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。ネットの特性で遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられたり、指導碁の講評を繰り返し見ることが出来る機能により好評を博している。

(4)棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

平成26年度は、日本棋院創立90周年を記念して全国の約90支部へ特別棋士派遣を実施し、日ごろのファンへの感謝を表し指導碁等を実施する。

平成26年度の棋士派遣は、国内で約900件を見込んでいる。

(5)囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援する。

(6)囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部の協力を得て、昨年に引き続き6箇所の県にてイベントを開催する。棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。イベントを通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

また、今年度は日本棋院創立90周年を記念して会員拡大キャンペーンを実施し、更なる個人・支部会員等の維持拡大を図る。

①個人、支部会員の維持・拡大

②法人会員の維持・拡大

③支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8箇所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作り

だす力」としてのコミュニティーづくりとしても支部活動を強化していく。
特に、地方の団塊の世代のシニア層を対象とした入門教室を実施し、会員の新規加入、後継者育成等を推進し、活性化を図る。

### 4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟（ＩＧＦ）との連携
日本棋院は、国際囲碁連盟（ＩＧＦ）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。

(2) 「全日本囲碁連合」を継続
昨年度、第４回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズに囲碁が参加する際、立ち上げた日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会の３者で結成する「全日本囲碁連合」を継続維持する。

(3) 三カ国棋院首脳会議
世界の囲碁界で活躍する日本棋院、中国棋院、韓国棋院の三カ国が出席して本会議を行う。将来にわたり世界中に囲碁を大きく発展させ、広く振興するため、三カ国それぞれの棋院が協力・連携・努力を行う。

(4) 棋士の海外派遣
各官公庁・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。
・英国棋士派遣
・北欧棋士派遣
・シアトル棋士派遣
・ＵＳ碁コングレス（ニューヨーク）
・欧州碁コングレス（ルーマニア）

## 5　段級位認定

段級位の認定は棋力の到達度の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会
今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定
日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。今年度は日本棋院創立90周年を記念して１回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を２回実施する。

(3) インターネット認定
ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

## 6　囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した654の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

### 6-1　青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした４つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行なう。

(1)　第35回　文部科学大臣杯　少年少女囲碁大会
各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を7月29日～7月30日の２日間、東京の日本棋院で開催予定。地方大会においては多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は小・中学生それぞれ約100人が出場予定。＜公益財団法人ＪＫＡの青少年健全育成補助（予定）＞

(2)　第11回　文部科学大臣杯　小・中学校囲碁団体戦
全国大会は7月27日～28日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。小・中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチーム団体戦で128校が出場予定。＜公益財団法人ＪＫＡの青少年健全育成補助（予定）＞

(3)　第38回　文部科学大臣杯　全国高校囲碁選手権大会
昨年度に引き続き地方大会においては、多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は7月22日～24日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。約450人が出場の予定。＜公益財団法人ＪＫＡの青少年健全育成補助（予定）＞

(4) 第4回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦
平成23年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした大会。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部48名、小学生高学年の部48名の計96名がこども棋聖の称号をかけて競う。開催は、12月13日～14日、倉敷市にて開催の予定。

(5) 第3回ロッテこども囲碁大会
中学生以下のこどもを対象に5月3日、日本棋院で開催予定。9路盤、13路盤、19路盤の使用がこどもたちの人気を呼び、1,000人以上が参加予定。

(6) その他の大会を継続開催
・ジュニア囲碁大会
・ジュニア囲碁パーク

### 6-2　囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

(1) 第7回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦
級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国10

ブロック、12 の地方大会を開催し、11 月 30 日に京都で全国大会を開いてチャンピオンを競う。
特に、平成 26 年度は、新潟大会が 10 月に新設され、8 月の東京大会での、東京国際フォーラムでは、約 1,300 名に増員され、合計 7,300 名の大規模大会となる。

(2) 第 57 回全日本女流アマ選手権戦
各県大会を勝ち上がった選手 128 名が 3 月 14 日～15 日、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。

(3) 第 52 回女流アマ都市対抗戦
アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。
１チーム５名の団体戦。11 月 18 日～19 日の 2 日間、香川県高松市で開催予定。
全国からの参加選手は約 700 人～800 人を予定。

(4) 第 14 回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権
内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1 チーム 3 名編成であれば誰でも参加できる団体戦。東京と大阪の２会場で開催され、２会場の優勝チームは東京で決勝戦を行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。

(5) 都道府県民まつりの開催
①世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦　県予選
「世界アマチュア囲碁選手権戦」の国内予選として、平成 26 年度も支部等活動に協力し推進する。
② 日本棋院支部対抗戦　都道府県大会
各県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的にまた、支部の活性化となるよう推進する。

(6) 全国規模イベントへの参加
「ねんりんピック健康福祉祭」は、10 月 5 日～6 日に栃木県下野市で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への 一助として参加、協力を行う。

(7) その他大会等
1 月 5 日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

### 6-3　アマチュア国際大会への参加等

(1) アマチュア国際大会への参加
・第 35 回世界アマチュア囲碁選手権戦（韓国開催）
・第 9 回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権
・ワールドユース囲碁選手権戦
・ハンファ生命（旧大韓生命）杯少年少女囲碁選手権戦（韓国開催）

(2) 国際交流の支援及び講演
・日露交流
・サマースクール
・日中交流（特命棋士）

## 7　表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

(1) 大倉喜七郎賞
日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。

(2) 秀哉賞
21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士を表彰する。

(3) 囲碁殿堂表彰
日本棋院創立80周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰に加え、平成25年度より創設された、「棋戦優勝者選手権戦」の優勝者に対する内閣総理大臣杯等の授与式を行う。

## 8　囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命との認識のもと、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

①月刊「碁ワールド」
中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ構成とし、創立90周年記念特別企画を掲載する予定。

②月刊「囲碁未来」
入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。

③「週刊碁」
囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。
また、創立90周年事業のイベント、キャンペーン等の告知および記事を随時掲載する。そのほか、週刊碁特別企画を掲載する予定。

④「囲碁年鑑」
月刊碁ワールドの臨時増刊号として５月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など、平成25年一年間の囲碁情報をまとめる。

⑵ 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページ、英文ページなど国内だけでなく、世界の囲碁ファンに向けてタイムリーな情報提供を行い、囲碁普及に努めている。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。

平成26年度は、創立90周年に合わせ、特設サイトの設置や、サイトの見直しを図り、より親しみやすいページ作りを進める。

②「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、対局の他に棋戦中継等の情報提供を行う。

平成26年度は、サービス開始10周年にあたること、また、創立90周年を記念し、情報会員とのコンテンツ連携や、会費面で家族・学生向けの料金設定を行うなど、サービスの向上に努める。

・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
・同好会機能による囲碁ファン同士の交流
・入門、初心者向けコンテンツの開発

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40年以上に亘る、約４万局の棋譜データを提供している。26年度は、ネット対局「幽玄の間」サービスと連携させ、両会員向けにコンテンツのセット提供を行いサービス向上に努める。

④ 碁バイルセンター

「碁バイルセンター」は、従来型携帯電話向けサービスで、携帯電話の契約数減少並びにスマートフォン対応機能がないために会員数が大幅に減少している。

平成26年度6月末をもって「碁バイルセンター」事業を終了し、ネット対局「幽玄の間」のスマートフォンアプリの強化などの事業にシフトする。

⑤電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍を電子書籍アプリ「e碁BOOKS」、「i碁books」で配信する。

## ９ 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

## １０ 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

## 10-1　有楽町囲碁センター

①平成25年6月に従来の東京駅・八重洲北口から、有楽町東京交通会館へ移転した。名称も「有楽町囲碁センター」へと変更し、年末年始以外は年中無休で、ファンの方々に対局場のほか段級位認定大会、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校、ジュニアスクール等のサービスを提供している。

②有楽町に移転後は、商業地に立地する地の利の良さ等により入場者数が増加している。引き続き、日本棋院の新しい拠点として、利用者に満足かつ愛される囲碁センターを目指し、サービスの向上に努める。

## 10-2　関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄する。

(1)　各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- 夏休み子ども囲碁フェスティバル
- 歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- 比叡山こども囲碁合宿
- 阪急納涼囲碁まつり
- 定例段級位認定大会(年5回)
- 級位者大会（年6回)

(2)　会館事業の充実

対局ホールでは、一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日や有段者の集い、囲碁学校、入門教室を開催。貸室では、法人各種団体の利用を促進し、対局環境をより快適に整えご利用して頂けるよう努める。

(3)　大学での囲碁講座開設への取組み

平成25年度より、関西圏の大学2校で囲碁講座が取り入れられた実績をもとに、引き続き各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行い、若者層への普及拡大を行う。

(4)　小中学校への囲碁普及活動の充実

関西棋院と共催し今年3年目を迎える「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室)」を引き続き地元の囲碁協会と協力し推し進める。今後も継続して市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう努める。

また、すでに、小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大するように努める。

(5)　関西総本部地域への囲碁普及

関西圏の都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として、各地域の支部や囲碁団体と協力して囲碁大会等を実施し、個人・支部会員等の維持拡大及び支部活動の充実を図る。

10-3　中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統轄する。

(1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）

・囲碁ゼミナール
・東海地区朝日アマ団体十傑戦
・ジャンボ団体戦
・中部こども級位者大会
・会員と棋士囲碁のつどい
・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流
・早春囲碁の集い

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第55期王冠戦」（中部総本部棋戦）
中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

①指導碁は、平日１名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実を図る。
②院内イベントの充実を図る。
・「10アンダーの日」
・「級位者の日」、「有段者の日」
・「Happy級位者の日」、「Happy有段者の日」
③入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全13コースの内3コースに昨年より午前の部を増設し、女性及び高齢の方々の囲碁ファンより好評を得ている。

(4) 普及活動

・中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を設立し、中部地区の高校生を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
・ＰＴＡ及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普及に努める。
・北陸地区の囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、囲碁ファン参加イベントを開催し会員の拡大を図る。

## Ⅱ　収益事業

### 1　免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1)免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう3級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

平成26年度は、日本棋院創立90周年を記念して特別免状を計画し、囲碁愛好者の棋力向上のモチベーションアップを図る。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

## 2　不動産賃貸事業（収益事業 2）

東京本院では地下 1F 部分を、中部総本部では 1F、4Ｆ～6Ｆ部分を他法人に賃貸する。

## 3　販売品、書籍事業（収益事業 3）

(1) 販売事業

東京本院、有楽町洲囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用してのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者棋力向上の講座、問題集、事典等の単行本を発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

(3) 電子書籍アプリ

日本棋院が発行した各種紙誌（週刊碁、碁ワールド、囲碁未来）及び書籍を電子書籍アプリ「e 碁 BOOKS」、「i 碁 BOOKS」で配信する。そのほか、囲碁アプリ「詰碁マスター」、「黒猫のヨンロ」等の i0s 向けアプリで詰碁等問題を配信する。

# Ⅲ　管理部門

## 1　受取寄付金

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

(1)「ＧＯ　碁　ジャパン」応援募金の継続

(2) 法人賛助会員の維持・拡大

(3) 上記以外の特定寄付金、一般寄付金

## 2　コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取組みを施しており、平成 26 年度においても、継続的に取組み強化を図る。

## ３　「日本棋院創立９０周年」事業

日本棋院は、平成 26 年度に創立 90 周年を迎えます。

この記念の年にあたり、「ありがとう　ファンとともに 90 年　日本棋院は囲碁の継承と発展を目指し歩み続けます」をスローガンに、次の記念事業を展開する。

⑴ 平成 26 年度 10 月に、市ヶ谷本院、関西総本部、中部総本部において記念式典を実施する。

⑵ １階のフロアについて、お年寄りの方や子供さん達を始め様々な利用者が、“安全で、安心して楽しく利用いただける会館”となるよう、自動ドアの設置やトイレの改修を行う。また、ＬＥＤ照明の導入など、節電施策を進めつつ明るい雰囲気作りを行う。

⑶ 財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」を更に拡充し、囲碁の魅力の発展など、囲碁ファンの拡大に努める